

**生活支援体制づくり協議体会議（地域包括支援センター於呂  
担当圏域レベル）開催報告書**

1 開催日時	令和 7 年 10 月 29 日（水） 10 時 00 分 ～ 11 時 30 分
2 開催場所	地域活動・研修センター 視聴覚室
3 参加者	16名（委員8名、事務局3名、関係機関5名）
4 協議の内容	

1. 開会

2. 会長挨拶（生活支援体制づくり協議体会長）

- ・秋祭りの時期。にぎやかで、地域の絆、繋がりを感じることができた
- ・今日はグループ討議を行ない、現状と課題について意見交換をする

3. 議事

(1) 令和7年度 生活支援体制づくり協議体会議の取り組みについて

前回の振り返りを行い、「つながりの希薄化」「居場所」に項目をしぼり、検討を行うこととなった。

今回は「地域でできそうなこと・やってみたいこと」「目指す姿」について2つのグループに分かれ協議を行った。

**1 グループ**

- ・急な世帯数の増加やコロナにより関係が希薄になった地域がある。
- ・サロン活動ではリーダーの負担が大きく、担い手が少なくなっている。
- ・サロンについて、イメージの中で「高齢者が行くもの」という印象が定着している。
- ・敬老会を企画しても参加者が少ない地域もあり、魅力的な内容が必要。
- ・日常的な住民間の関わりがあること、顔見知りがいることで、地域活動への参加者も増える。施設においてもロコミや誘い合いなどで利用者が増えたケースもあり、近隣同士で支え合っていける関係作りが大事。
- ・地域活動を企画する時には、参加者に役割を持ってもらうことが、参加しやすい環境づくりになる。
- ・赤佐でサロン（カフェ）の地域ミーティングを初めて実施したところ、新規の活動を始めてみようかなという地区が出た。やはり、情報共有が大事。
- ・地域の活動者が集まって、話をすることで「そんな簡単にやってもいいんだ」「こんなやり方もあるんだ」など活動者の不安が軽減したり、新たな活動のモチベーションに

つながるのではないか。

・ 独居高齢者の情報を掴みきれていない中で、回覧だけでは伝わりにくいので、世帯配布などで班長さんが一軒一軒まわって配っているという話も出た。情報共有しながら地域づくりをしていくことが重要。

## 2 グループ

・ イベントがあっても、日々の繋がり合いがなければきにくい。しかし、赤佐・中瀬は比較的そういったつながりが残っている地区でもあるが、一方で、アパートで高齢者一人暮らしの方など、なかなか地域活動の情報を掴むことも難しく、中々繋がりにくい人もいるのが現状。

・ 多世代交流について

お正月に子供達が灯籠を作って、神社で三が日飾っている地域があるとか、シニアクラブと子供会と交流があるという意見があった。地域の中で交流事業（イベント）が多いという話があったが、私たちがまだまだ把握しきれていないことがあるので、調べてみるのも良い手かなと思う。

・ 健康麻雀、モルック、料理教室など、その人が興味を持つもの、その人その人に合ったものを提案していくのも一つ。

・ その人の特技を披露できる場所を作って「参加しませんか（出してみませんか）」というシステムを作っていくのも良い。

(4)その他

・ 次回会議の日程調整。

## 5 今後の見通し・ 必要な対応

・ 次回開催日程2/25（水）10：00～11：30

・ 今回の意見を次回までにまとめる。次回はその内容を基に、今後の取り組みについて具体的な内容を協議する。